

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：32635

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K12807

研究課題名(和文) インド密教における出家修行者の生活規範と社会的ステータスの研究

研究課題名(英文) A study on the Norms for Daily Life and Social Status of Monks in Indian Tantric Buddhism

研究代表者

横山 裕明 (YOKOYAMA, HIROAKI)

大正大学・総合仏教研究所・主任

研究者番号：20794043

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はインドにおける密教行者の日常的な修行と生活に焦点を当てたものである。特に、密教行者が朝に起きてから夜に眠るまでの規範が示されている『底哩三昧耶王経』と『底哩三昧耶王成就法』を取り上げ、文献学的手法を用いて読解をおこなった。その結果、密教行者たちの日常的な修行と生活の実態が明らかになり、それらの規範の変遷についても浮き彫りになった。その上、『底哩三昧耶王経』は改めて真言密教の主要経典である『大日経』と密接な関係があることが判明した。主要な研究成果は『底哩三昧耶王成就法』全体のサンスクリット語とチベット語訳の校訂テキストおよび和訳の公表である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の中核に置いた底哩三昧耶王系経軌は古来より真言密教の所依経典『大日経』との関係が指摘されていないが研究がほとんど進展してこなかった。まず、この経軌に改めて光を当てた点は大きな学術的意義といえる。また、本研究によってインド中期密教時代を中心とする修行生活の一端が垣間見え、現代日本密教における修行生活と酷似する要素も確認できた。そのような要素の中でも胎蔵大日如来真言や不動讃の読誦、食事や就寝時の作法等について校訂テキストと現代語訳を提示できたことは大きな成果といえる。これらの成果は仏教の内部だけに留まらず、シヴァ教を始めとする他宗教を解明する上でも有用な比較資料となるであろう。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on the daily practice and life of monks in Indian Tantric Buddhism. Especially, this study takes up the Trisamayajatantra and Trisamayajasadhana and reads them by philological method. The reason is that these literatures are shown norms of the Tantric Buddhist monks from the time they wake up until they go to sleep. As a result, the daily practice and life of the monks and its transitions are clarified. Moreover, it was proven anew that the Trisamayajatantra is relevant to the Vairocana Abhisambodhi, one of the major texts of Shingon Buddhism. The main result of this study is the publication of the preliminary edition and its annotated Japanese translation of Trisamayajasadhana.

研究分野：インド密教

キーワード：底哩三昧耶王系経軌 日常実践 Trisamaya 出家修行者 中期密教 大日経 不動讃 胎蔵大日如来

1. 研究開始当初の背景

仏教は4世紀頃からインド宗教全体のタントラ化という潮流に飲み込まれ、神秘的要素を取り入れた密教が発生し、経典の内容は請雨や治病といった現世利益を求める修法が占めるようになった。見方を変えれば、それは俗世間を離れて孤独に修行に励むことが主であった仏教が、世俗的な要求に答える宗教へと変貌を遂げたともいえるであろう。このような宗教の変貌によって出家修行者たちが失ってしまったものを考えるならば、真っ先に想起されるのが厳格な戒律である。戒律について書かれた文献は、初期仏教において三蔵と呼ばれる聖典群の一角を担う律蔵として纏められ、出家修行者たちの生活規範という重要な役割を果たすものであった。しかしながら、インド密教では戒律を中心に書かれた文献というものは基本的に存在せず、また経典の中になぜかに見出せる密教の律的な内容はいずれも端的かつ抽象的であって、現段階では比較資料として耐え得るものではない。このように密教文献に詳細な戒律が確認できない原因には、出家者が俗世間と交わるようになったことで出世間的な内容の戒律は障碍となって衰退した可能性、あるいは口伝に重きが置かれたために戒律がほとんど明文化されなくなった可能性などが考えられるが、これまでの学問的蓄積ではいずれの考えも推測の域を出ない。そこで、密教行者の生活規範について言及される文献を精読することで学問的蓄積を増やし、上記の問題の解明に寄与したいと考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、中期密教から後期密教の文献を通じて密教僧の内実を俯瞰的に見ることで先述の問題を解決するための基礎資料を作成することである。具体的には(1)根本墮罪を軸に置いた文献の探索、(2)『底哩三昧耶王経』および『底哩三昧耶王成就法』の精読と活用、(3)デジタルデータの活用、である。

(1)根本墮罪を軸に諸文献を探索することについて。これまでの密教の戒律に関する研究は、密教に特有の戒とされる三昧耶あるいは律儀が中心に扱われてきた。しかし、いずれも文献ごとに固有の内容を有しているため、複数の文献にまたがって比較検討をしても軸となる内容が定まらずに大きな成果が得られなかった。ところが、本研究の軸に置く根本墮罪は、後期密教における基本的な経典分類法である父タントラ・母タントラという垣根を越え、少なくとも14以上の文献でおおよそ同じ内容を有している。したがって、根本墮罪は密教の戒律的な概念の中で唯一、最終的に帰結した形態を確認できるのである。しかも、根本墮罪には三昧耶や律儀と部分的に合致する内容が含まれており、それは中期密教文献である『大日経』や『金剛頂経』に遡って確認できることが分かっている。そのため中期密教から後期密教における生活規範の変遷を追うのに根本墮罪はこの上ない素材といえる。

(2)『底哩三昧耶王経』および『底哩三昧耶王成就法』の精読と活用について。『底哩三昧耶王経』は、『大日経』の具縁品や三三昧耶品など多くの部分で類似する内容が認められるが、儀礼内容が未成熟な段階にあることから『大日経』よりも先行して成立した中期密教経典と推測される。そのため『底哩三昧耶王経』は中期密教以降の経典の成立に強く影響を与えたものと考えられ、さらに真言宗で日常的に読誦される不動讃の典拠としても非常に重要な意味を持つ経典である。ところが、先行研究には概説および儀礼を中心とした他経典との比較検討しか存在せず、未だに校訂テキストも現代語訳も公表されていない。その主な理由には、サンスクリット写本および漢訳が確認できないためにチベット語訳に頼らざるを得ない事情が挙げられる。しかし、本研究課題では関連文献を含めて多くのサンスクリット写本およびチベット語諸版を比較に用い

て校訂テキストを作成するため、『底哩三昧耶王経』および『底哩三昧耶王成就法』に説かれている内容は確定的に明らかになる。そこで中期密教の早い段階における密教僧の生活規範は初めて明るみに出ることとなり、中期密教以降の生活規範の変遷の解明に説得力を持たせることが可能となる。

(3)デジタルデータの活用について。近年は写本・版本のデジタルデータ化が急速に進み、多くの資料がインターネットなどの媒体を通じて利用可能となった。このデジタルデータを活用することで先行研究ではタントラには説かれていないと考えられていた根本墮罪が複数のタントラの中に見出せることや、複数の写本を同時並行的に読解していくことで同一文献であっても写本によって墮罪項目の相違があることなどを明らかにしてきた。密教の戒律に関する先行研究は大部分がデジタルデータ普及以前のものであるため、本研究手法によって諸文献からの引用文や平行文、類似箇所はより効果的に明らかにすることが可能となり、密教僧の生活規範の変遷および社会的ステータスを浮かび上がらせることができると確信している。その成果は仏教の内部だけに留まらず、シヴァ教を始めとする他宗教を解明する上でも有用な比較資料となるであろう。

3. 研究の方法

『底哩三昧耶王成就法』(*Sādhnamālā* vol. 1, no.1) 全体のサンスクリットおよびチベット語訳の校訂テキストと訳註を作成する。当文献はサンスクリット写本が複数残されており、チベット語訳に頼らざるを得ない『底哩三昧耶王経』を読解していく上で大きな指針となる。さらに密教僧の一日の勤行法則や三昧耶戒も説かれていることから本研究の目的を達成するのに最適な文献といえる。既存のサンスクリット校訂テキスト (Bhattacharyya1925"*Sādhnamālā*"Baroda) に加えて、4本のサンスクリット写本 (東京大学写本松涛目録 no.451, 452, 453, 454) 、そして2種のチベット語訳 (Abhayākara Gupta と tshul khri ms rgyal mtshan の共訳=デルゲ東北目録 no. 3144・北京版大谷目録 no. 3965、grags pa rgyal mtshan 訳=デルゲ東北目録 no. 3400・北京版大谷目録 no. 4221) を使用して校訂テキストと訳註を完成させる。

また、『底哩三昧耶王経』(デルゲ東北目録 no. 502・北京版大谷目録 no. 134) 全17章の中でも成立が最も新しいと考えられ、生活規範に直結する密教僧の一日の勤行法則が散見される第1章(デルゲ版 181a2-190b6)を中心に情報の整理をおこない、『底哩三昧耶王経』において根本墮罪および類似した内容がどの程度見出せるかを精査する。校訂には東系統(デルゲ・北京・チョーネ)と西系統(ラサ・ナルタン・トク宮・シエルカル写本・河口慧海請来写本)および系統不明のプタク写本という計9つのチベット語訳版本・写本を校合させる。さらに成就法類の中でもチベット語訳のみ残るもの(デルゲ東北目録 no.2697, 3144, 3147, 3400, 3401)と漢訳のみ残るもの(大正蔵 no.1199, 1200, 1201,1202)を比較に用いることで校訂および訳註の精度を上げる。

4. 研究成果

主たる成果として、研究期間中に『底哩三昧耶王成就法』(*Sādhnamālā* vol. 1, no.1) 全体のサンスクリットおよびチベット語訳の校訂テキストと訳註を完結させた。この成果物は分量が多いため、『豊山学报』第64号、第65号、第66号の3回に分けて公表した。この成果により、チベット語訳しか残されていない本経の『底哩三昧耶王経』およびその関連文献を読解する上での基礎資料を提供することができた。また、底哩三昧耶王系経軌に関する理解も飛躍的に向上し、

インド中期密教時代を中心とする修行生活の一端が垣間見え、密教を解明する上で重要な成果を多く得ることができた。

まず、真言宗で古来読誦されてきた「不動讃」について、『底哩三昧耶王経』と『底哩三昧耶王成就法』の Skt および Tib を中心にして梵文還元の再考を試みた。先行研究では主に漢字音写から「不動讃」の梵文還元が試みられてきたが、「不動讃」に相当する内容の Skt および Tib について複数の写本と版本を使用して異読や文法上の問題点を整理することで、先行研究とは異なる角度からの梵文還元を示すに至った。この成果は、豊山教学振興会第 50 回教学大会および『豊山教学大会紀要』第 50 号において公表した。

また、『底哩三昧耶王経』と『底哩三昧耶王成就法』を中心に、密教行者の起床から就寝までの勤行に関する記述を考察した。特に *Ādikarmapradīpa* 等の初心密教行者に関する記述のある文献との間には平行文や類似箇所を見出すことができた。これらの内容を比較考察することによって、密教行者の日常的な勤行法則の歴史的変遷の解明に関わる要素の回収や、経典に説かれる基礎的な勤行法則が如何なる変化を伴って成就法類に取り込まれたかを言及するに至った。この成果は、日本密教学会第 54 回学術大会および『密教学研究』第 54 号において公表し、同第 55 回学術大会において日本密教学会賞を受賞した。

上記の他、真言密教において最重要の真言のひとつである胎藏大日如来真言アビラウンキャンに関する新たな可能性や根本墮罪に近似する内容の校訂と考察（共に『豊山学報』第 66 号において公表）など幅広い研究成果を得ることができた。初年度より新型コロナウイルス感染症の流行が始まり、当初予定していた海外出張など実現できなかったことも多々あるが、オンライン上での写本の入手やデジタルデータの活用によって不足を補うことで、およそ想定していた通りの研究成果を挙げることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 横山裕明	4. 巻 66
2. 論文標題 『底哩三昧耶王成就法』校訂テキストと和訳(3)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 豊山学報	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 横山裕明	4. 巻 65
2. 論文標題 『底哩三昧耶王成就法』校訂テキストと和訳(2)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 豊山学報	6. 最初と最後の頁 (93)-(136)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 横山裕明	4. 巻 54
2. 論文標題 密教行者の日常勤行法則について - 底哩三昧耶王系経軌を中心として -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 密教学研究	6. 最初と最後の頁 39-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 横山裕明	4. 巻 50
2. 論文標題 底哩三昧耶王系経軌に基づく「不動讃」梵文還元の再考	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 豊山教学大会紀要	6. 最初と最後の頁 29-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山裕明	4. 巻 64
2. 論文標題 『底哩三昧耶王成就法』校訂テキストと和訳 (1)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 豊山学報	6. 最初と最後の頁 (67)-(109)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 横山 裕明
2. 発表標題 密教行者の日常勤行法則について - 底哩三昧耶王系経軌を中心として -
3. 学会等名 日本密教学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横山 裕明
2. 発表標題 底哩三昧耶王系経軌に基づく「不動讃」梵文還元の再考
3. 学会等名 豊山教学大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------